

権藤君を呼んでくれ

— 郷土の偉人を支えた友情秘話 —

- 1 学 年 第7学年〔中期〕
 2 主題名 友情〔2－(3)〕
 3 ねらい

藤井清水の最期の言葉を聞いたときの権藤円立の思いを通して、自分自身も生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を築いていこうとする心情を育てる。

- 4 資料名 「権藤君を呼んでくれ」
 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 藤井清水と権藤円立について知る。 ○ この曲を知っていますか。 ○ 藤井清水について知っていることを発表しよう。	<ul style="list-style-type: none"> 知らない。 知っている。藤井清水だ。 呉出身の作曲家 「呉市歌」を作曲した人 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 藤井清水の曲を流して興味をもたせる。 ○ 藤井清水と権藤円立の写真を提示し説明する。
展 開	2 資料「権藤君を呼んでくれ」を読んで話し合う。 ○ 「権藤君」は土曜日をどんな気持ちで待っていたのでしょうか。 ○ 「権藤君」が練習をつらく感じなかったのはなぜでしょう。 ◎ 「藤井君」の最期の言葉を知って「権藤君」はどんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 「藤井君」と心ゆくまで話したい。 次はどんな作曲ができていかなあ。 彼のピアノ演奏で歌いたい。 僕の歌はどのように評価されるだろう。 彼を尊敬していたから。 彼を有名にするためなら頑張れるから。 彼の音楽に対する評価には間違いがないから。 最期まで僕のことを思ってくれていたのか。 「藤井君」を尊敬していたが、彼も自分のことを大切に思ってくれていたんだ。ありがとう。君とは生涯の友であった。 お互い支え合ってきた仲であった。 僕が君と歩んだ人生は最高だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 藤井清水と会うことが楽しみだった権藤君の気持ちに共感させる。 ○ 権藤円立の思いを考えると、友情についての考えを深めさせる。 ○ お互いを尊敬し合う深い友情が最期の言葉にあることに気付かせる。
終 末	3 友情について、お互いの意見を出し合う。 ○ 「心のノート」P.54に友情についてお互いの考えを記入しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちは宝物だ。 お互いに支え合える関係 困ったときの相談相手 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理由を付けて発表させる。
	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> つらいときや困ったときに支えられる友だちになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友情に関わる話を準備しておく。

6 授業の概要

(1) 主題について

中学校の内容項目〔2－(3)〕「真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つもの」をもとに設定した。郷土の作曲家藤井清水と音楽活動を共にした声楽家権藤円立の生涯にわたって尊厳と信頼に支えられた友情にふれることによって、一層確かな友情を築いていこうとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

中学校生活にも慣れ、感情の行き違いや考え方の違いから人間関係のトラブルが増えてくる時期や、学級の実態から、さらに友情を深める必要性を感じた時期に活用したい。

イ 資料の中心場面で考えさせたい内容

藤井清水が自分の死を覚悟した時に、友達を呼んでくれと頼んだ心情を読み取り、真の友情について考えさせたい。

ウ 「心のノート」の活用

「心のノート」を使って、班でお互いの友情についての意見を交わすように工夫したい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

藤井清水の作曲した音楽を聴かせ、その後、藤井清水と権藤円立の写真を提示することで資料への興味付けをしたい。

イ 展開後段の工夫

「心のノート」P. 54を活用し、班でお互いの友情に関する気持ちを理由付けさせながら交流させたい。

ウ 終末の工夫

単なる偉人の話に終わることなく、終末で教師自らの体験談から友情に支えられた思い出を語ることで、信頼を基盤として成り立つ友情が人間としての生き方の自覚を深める上でいかに大切であるかを実感させたい。

(4) 参考資料

「作曲家 藤井清水 増訂版」 呉市昭和地区郷土史研究会編

執筆者より

呉市焼山出身の作曲家藤井清水には生涯にわたって信頼を寄せる友人がいた。そのことを知ったのは呉市昭和地区郷土史研究会編の「作曲家 藤井清水 増訂版」を読んだ時である。生徒には、お互いを高め合い、はぐくんできた二人の様子から友情について学ばせたい。

(昭和中学校 川空 幸男)

